

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
オブジェクト指向プログラミング Object-oriented programming		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ()		Cプログラミング及び演習を履修済みの学生に限る。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
計算機工学 I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小林大輔	講義棟 1F	火曜～金曜 9:00～18:00 (授業及び会議の時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
ビジネスシーンや消費者の嗜好に合わせて、必要とされるプログラムは多様化している。それに合わせて、仕様の変更、追加にも柔軟に対応しなければならない。このようなニーズに対応できるよう、オブジェクト指向プログラミングを学ぶ必要がある。				
授業の目標				
①オブジェクト指向プログラミングの重要性を説明できるようにする。 ②クラスや継承などの基本的事項およびオブジェクト指向設計などについて説明できるようにする。				
授業の方法				
講義形式で、必要に応じて演習を行いながら進める。				
学習の成果 (学習成果)				
授業の目標①②を達成すると、オブジェクト指向のメリットを生かしたプログラムが作成できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オブジェクト指向プログラミングの重要性			
第2回目	クラスとは			
第3回目	インスタンスとは			
第4回目	グローバル変数とインスタンス変数、		小テスト	
第5回目	多様性			
第6回目	カプセル化			

第7回目	継承① 継承の基本	
第8回目	継承② メソッドの継承、	小テスト
第9回目	インターフェイス	
第10回目	マルチスレッド	
第11回目	フレームワークとデザインパターン	
第12回目	UML、	小テスト
第13回目	オブジェクト指向設計	
第14回目	プログラミングの実例① 使用の決定	
第15回目	プログラミングの実例② プログラムの設計	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度		加点はしないが、受講態度が著しく悪い場合は減点し、場合によっては退室してもらう。
レポート	50%	課題のプログラムが動作するかで判断し、採点基準は「正常に動作する(60)、若干の修正によって動作する(50)、大幅な修正が必要(40~30)、未完成(30点未満)」(カッコ内は配点)である。
調査報告書		
小テスト	10%	テキストの演習問題を用いて小テストを実施する。満点となる条件は授業で説明する。
試験	40%	16週目に試験を実施する。
発表内容(態度含む)		
その他		無断欠席は1回につき5点減点する。理由のない遅刻2回で1回の無断欠席として減点する。
教科書と参考図書		
立山秀利 『Javaのオブジェクト指向がゼッタイにわかる本』 秀和システム		
履修上の留意点・ルール		
演習中、学生間で協力して課題に取り組むことは禁止しないが、完成したプログラムの説明ができない場合は採点しない。		